



2009年11月発行(17)
板橋区保育園父母の会
連絡協議会(板橋父母連)
 会長: 船橋由貴子
 住所: 174-0046
 板橋区蓮根 2-28-2-515
 URL <http://itakids.jp/huboren/>
 メール itabashi_fuboren@yahoo.co.jp

♪ 板橋ふほれん秋のカレーパーティ ♪

とき 11月28日(土) 10時半から

ところ 仲宿地域センター和室

内容

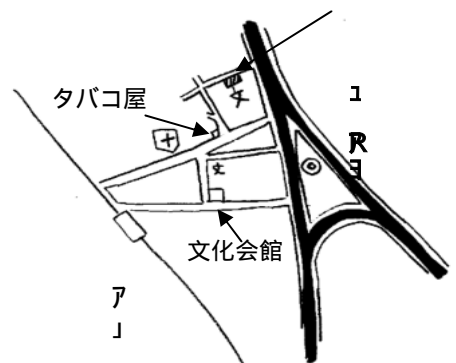
- 読書の秋 紙芝居と絵本の読み聞かせ
- 行楽の秋 手作りおもちゃ、手遊び
- 食欲の秋 手作りカレーパーティ

持ち物

ご飯、飲み物、お皿、スプーン、エプロン、三角巾

参加費 ひと家族500円

*当日参加OKですが、準備の都合もありますので、ご参加いただける場合はなるべく事前にメールでご連絡ください。



仲宿地域センター(氷川町 12-10)

- ・都営三田線「板橋区役所前」下車7分
- ・東武東上線「大山」下車12分
- ・板橋一小すぐそば

板橋区が3つの公立保育園の民営化を発表

2014年度志村坂下保育園・栄町保育園、2015年度しらさぎ保育園

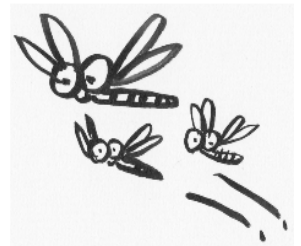
先月5日、板橋区は志村坂下保育園・しらさぎ保育園・栄町保育園の3園を民営化すると発表しました。このうち、志村坂下保育園としらさぎ保育園は併設されている都営団地の建替えに伴うもので、栄町保育園は、耐震基準を満たさない園舎の建替えに伴うものです。

区は「経営刷新計画」に基づき、これまで赤塚六丁目・加賀・高島平かえでの3園の民営化を実施したほか、来年度から高島平つつじ保育園、2012年度にはさいわい保育園を民営化することを決定しています。今回新たに決定された民営化計画が実施されると、当初50園あった公立保育園が42園まで減ることになります。

さらに今回の民営化発表では、これまで「今後建替えが予定される保育園についても、民営化の対象として検討する」としていた民営化方針を、「単独施設の保育園を建替えする場合は、『都営住宅建替えに伴う区立保育園の民間保育所への移行』の基本的考え方を踏襲し、民間保育所へ移行します」と、いっそうの民営化路線に踏み込んでいます。

もともと区の財政的な観点から進められてきた公立保育園民営化ですが、区財政はその後好転。社会問題化する待機児対策への対応の必要性や、既に民営化された園において、民間移行により、園児・保護者・保育士にどのような影響・変化があったかの検証も十分できないままで、次々と民営化を推し進める区の姿勢に不安を感じます。

今一度立ち止まって、保育園が子どもたちの健やかな成長を保障する場として大きな役割を果たすためにどうすればいいのか、子ども達が悲しい思いをする事なく、笑顔で日々過ごせる場をどうすれば維持・確保できるのか...社会全体で考えなければならない時だと思えます。



さいわい保育園 ~ 対象事業者を拡大して追加募集へ ~

「2012年度民営化」方針が打ち出されたさいわい保育園の保育事業を引き継ぐ民間事業者の募集が始まりました。

しかし、10月末の締め切り時点で応募事業者が4事業者に満たなかったことから、11月2日から対象事業者を「東京23区内」から「東京都市町村内」に拡大し、急ぎ追加募集が行われることになりました。

これまで区は、保護者への説明会の席で「手をあげてくる事業者がある」との認識を示していたにもかかわらず直面したこの現実、「あの説明会は何だったのか？」という疑問さえ湧いてきます。

さいわい保育園は、併設される都営団地の建替え計画とともに民営化し、保育園の建設も民間事業者に行ってもらおうというもの。事業者の負担は保育園運営費のほかに建設費や土地の賃借料にまで及びます。

板橋区の保育園事業者誘致のための政策は他の23区と比べてどうなのか？もしくは見直す必要があるのではないかとさえ、感じずにはいられません。

さいわい保護者としてはこの成り行きを冷静に受け止めつつも、現状が厳しい「さいわい保育園民営化」計画を肌で感じています。

(さいわい保育園一保護者)

異議あり！ 風雲急を告げる

「認可保育園の設置基準」見直し

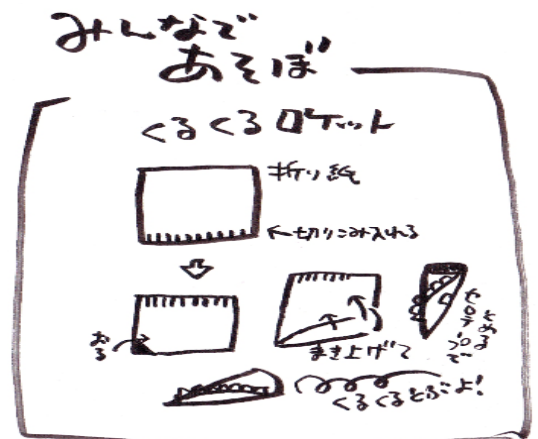
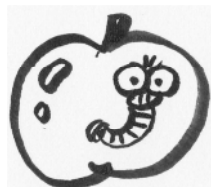
児童福祉法では、保育園を子どもたちの成長と発達のもととして保障するため、「認可保育園の設置基準」を定め、この中で、乳幼児一人当たりの保育室や遊戯室の面積や、保育士の配置基準などを規定しています。しかしその中身は、制定当時が戦後まもない時期（1948年）であったこともあり、ギリギリの「最低基準」にとどめられました。

最低基準の制定から60年たちましたが、これまで一度も改善されることがなかったため、日本の保育基準は先進諸国に比して劣悪な水準にとどまっています。

そのため、「部屋が狭いので、お昼寝はダブルのふとんに子ども3~4人まとめて」、「150人の園児+職員30人分の給食を2人の調理員さんで作っている」 いずれもある政令市の認可園の現状です。

世界的に見ても低い保育の基準が、「待機児解消」を口実に大幅に緩和されようとしています。待機児の多い都市部では、職員配置や施設面積に関する基準を緩和して待機児を解消するのですが、それでは、「保育園を増やさず、今あるところに子どもたちを詰め込みます」、「子どもの数は増えても保育士の先生は増やしません」というものです。子どもを犠牲にした最悪の対策だと言わざるを得ません。

待機児解消というならば、まず、国や地方自治体の責任で保育園の増設に踏み出すべきではないでしょうか。保育への公的責任が大きく後退している現状を放置したままで、子どもたちの「安全」「安心」「成長」を守る最低限の基準すら投げ捨てるやり方には、大いに異議あり！です。



「公立保育園を増やして！」 ~ 署名行動しました ~

10月31日、保育士の先生方と共同して、大山と西台で「公立保育園を増やして！」「保育施策の拡充を！」と訴える署名行動に取り組みました。

太鼓を叩き、風船とチラシを配りながら声を掛けると、おやこ連れや元園児の小学生を始め、多くの人が足を止めてくれます。合わせて200筆以上の署名が集まりました。ご協力ありがとうございました。

「ひ孫が入園できず大変」、「俺、つつじ保育園だった！民営化知ってるよ」、「板橋の待機児が23区内ワースト2位？それはひどい！」等、生の声を肌で感じた一日でした。これからも子ども達の保育環境を守るため、楽しみながら活動を続けていきます。